

イチゴ育苗ハウスの屋根散水冷却による 年内収量の増加

研究のねらい

近年、夏期の猛暑によりイチゴの花芽分化が遅れ、産地では問題となっています。そこで、安価で簡易な施設冷却法として、ハウスの屋上に設置した散水チューブから散水した水の気化熱を利用した屋根散水の効果について検討しました。

技術の特徴

- 1 長さ5cm程度の排水用ホースの中に散水チューブ（スミサンスイR育苗、住化農業資材（株）製）を通し、これをハウスの屋根部分に持ち上げ、約2mごとにマイカー線でしっかり固定します（写真1）。
- 2 屋根散水により、フィルムや骨材の部分を中心に温度が低下し、ハウス内の最高気温が3～5℃、葉温が1～2℃低下します（写真2）。
- 3 屋根散水によりイチゴの花芽分化が促進され、収穫開始日が早くなることにより年内収量および総収量が増加します（表）。
- 4 散水には水質の良い水を使う必要があります。また、水持ちの良い遮光資材を展帳した上で屋根散水を行うと効果的です。



写真1 屋根散水を行っている育苗ハウス

今後の取り組み

今後はタイマーを使用した間断散水や、水持ちの良い遮光資材の選定により、使用する水量の節減を目指します。

（執筆者：鶴生川 雅己）

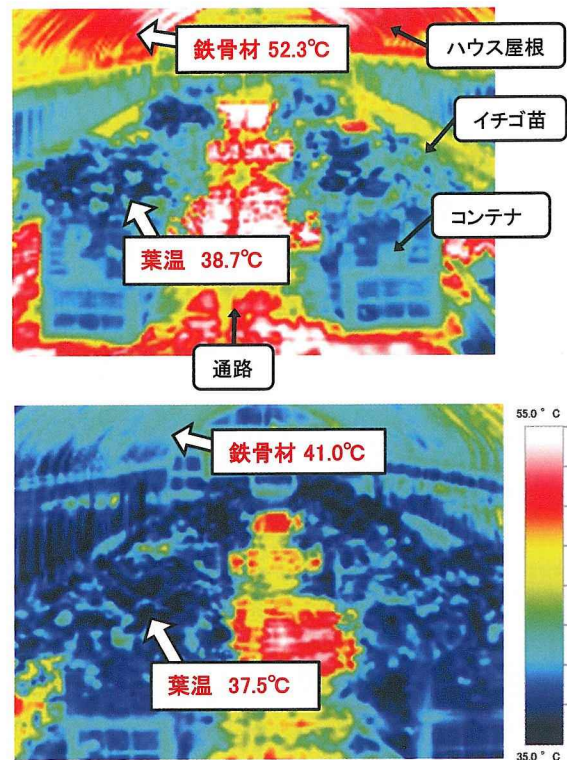


写真2 対照ハウス（上）と屋根散水ハウス（下）のサーモグラフィー写真

※調査日時：平成25年8月16日13:00時

表 屋根散水冷却育苗による年内収量の増加

処理	収穫始め	年内収量 (kg/10a)	総収量 (kg/10a)
屋根散水	12月14日	190	5,262
無処理	12月21日	28	4,985

※平成25年度の調査結果。両方の処理区ともに遮光率40%の遮光資材を展帳した。